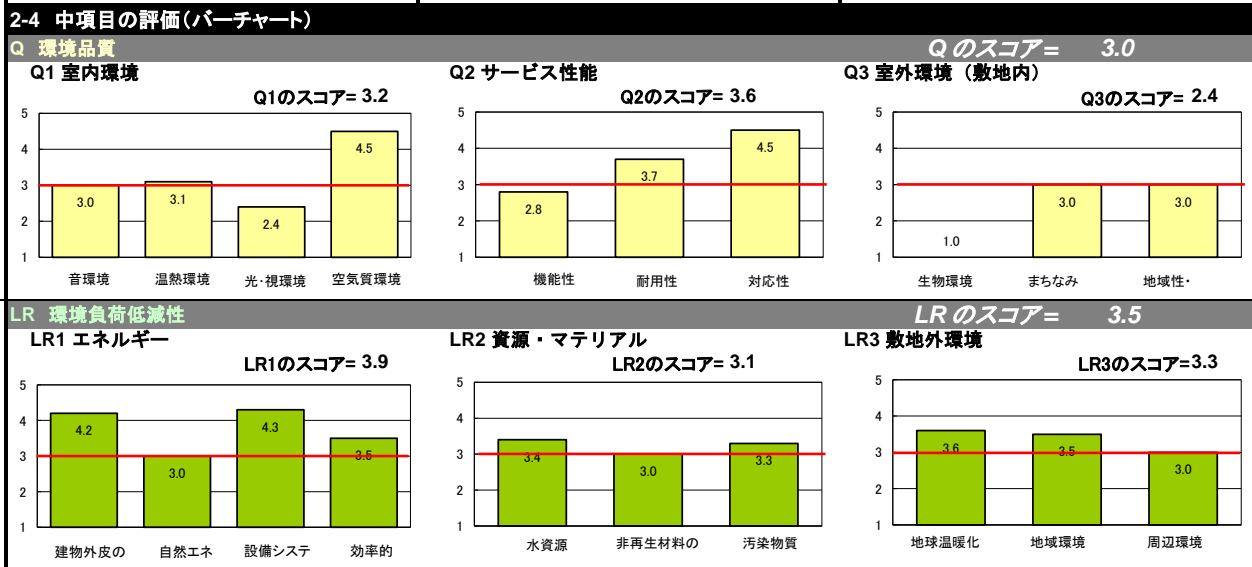
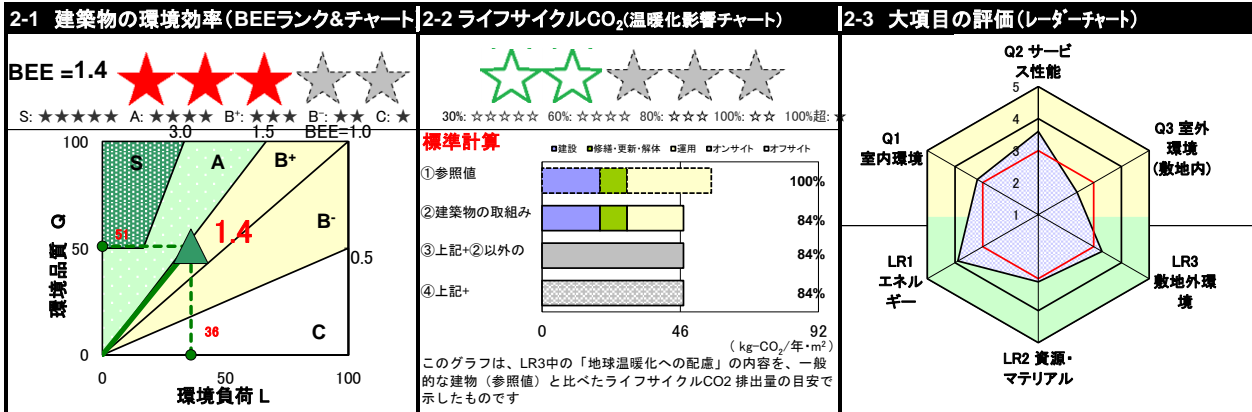


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アズビル株式会社 藤沢テクノセンター (仮称)第104建物 新築工事	階数	地上3F
建設地	神奈川県 藤沢市 川名1丁目81番1(他15筆)	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし(法22条区域)	平均居住人員	50人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2020年12月15日
敷地面積	3,587 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社日建設計一級建築士事務所
建築面積	1,337 m <sup>2</sup>	確認日	2020年12月21日
延床面積	4,217 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社日建設計一級建築士事務所



### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>研究生産施設の計画である。構内全体の動線や既存建物との機能連携を考慮しつつ敷地境界からセットバックした位置に配置。外装計画は既存建物との調和に配慮し、かつ耐用年数の高い材料を選択した。建物はフロア内外周部に階段EV等コアボリュームを配置、堅ダクトは外部に設置。階高を確保し機器類の更新・レイアウト変更に対応しやすい計画としている。</p>	0
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外壁、屋根、窓などからの室内への熱の進入に配慮した外皮性能を確保。</li> <li>内装材F☆☆☆☆の採用、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ないものを採用し空気質環境に配慮。</li> </ul>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地境界部分は視線を遮らないフェンス設置により防犯性防炎性に配慮。</li> <li>隔年1度程度、敷地を地域住民等に開放し納涼祭を開催。地域住民との交流、地域住民同士の交流や街の賑わいの形成に貢献を図る。</li> <li>排熱機器の大半を屋上(GL+20m以上)に設置。</li> </ul>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドBEMSによるエネルギー管理を行う。</li> </ul>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝夕通勤時、藤沢駅~アズビル事業所間のシャトル便をチャーターバスにて運行するなど交通負荷への配慮を行う。</li> </ul>
<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準法に定められた25%増の耐震性を有する計画としている。</li> <li>階高を確保、空間形状、荷重設定等更新性に配慮した計画としている。</li> <li>ガルバリウム鋼板ダクトの採用により腐食対策を行う。</li> </ul>	
<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動水栓、擬音装置により節水に対応。</li> </ul>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される